



虫はなぜ存在するのか？

100万種以上の昆虫が存在し、それ故に理論的にもそれ以上の回答がある。しかしこの問いがむしろ偏っている。おそらくこのように問われるべきである。「もしも虫がいなければどうなるだろう？」

多くの研究者にこの問いを課すと、当然あらゆる予測的的回答が得られるのだが、唯一共通する回答は次のとおりであった。「**人間の生命の存続が絶たれる**」。
昆虫学者は、無脊椎動物(昆虫の大多数を構成する)の消滅後、人類の存続は**10**年と持たないだろうと推定する。
しかし我々の絶滅の早さがどうであろうと、虫類の数の減少は壊滅的な影響をもたらすだろう。

昆虫は、特にその働きは、我々の生活に欠かせない。その一つに授粉が挙げられる。植物は自由に動けないため、その生存もまた動物や昆虫の働きに頼っている。昆虫は、膨大な数の植物を授粉する。その中でも我々にとって重要なのは、玉葱、大蒜、唐辛子、コーヒー、茶、ココア、、、等といった植物の授粉である。大豆は授粉が必要ないが、蜂などといった授粉媒介者の存在は結実の確率を上げるし、抵抗力を強め、結果として収穫量が増える。

食料が消滅し、次いで衣料が消えるだろう。生活に必要な不可欠な天然の繊維もまた昆虫がいなければ存在し得ない。例えば綿花は昆虫によって授粉しているのだ。

もし虫類が減びても、人類は食糧源に欠くことはないだろう。しかし、ほとんど全ての脊椎動物はその食糧源として昆虫に依存し、人類はその中では単に例外なのである。淡水魚にとっては主要な食糧源であり、両生類にとっても虫は必要であり、小型の爬虫類は虫を好んで食べている。鳥類が摂取する食物の中で虫類は**3**番目かそれ以上に多い。食虫性の哺乳類もまた数多く存在する。

また虫は地球上で最も重要なリサイクリストだ。彼等がいなければ糞の山、倒木や死肉は山積になっていくだろう。
地上の虫達は土を浄化しその栄養豊富な物質によって土を培養するのだ。

...では、なぜ人類は存在するのか？